

ぼくも私も 力いっぱい挑戦!



2020.7.13「力いっぱい検定」始まる!



■力いっぱい検定■ 学期に1回、国語(漢字)と算数(計算)、各100点で実施

*頑張った児童を国語と算数、それぞれで表彰します。

- ◎3回とも100点 : プレミアム賞
- ◎3回の平均点が90点以上 : ゴールド賞
- ◎3回の平均点が80点以上 : シルバー賞

★3学期に表彰



発行所
常磐南小学校
電話 46-2005
FAX 46-2048
— 第4号 —
2020.7.31

が大きいのではないか。
本校は、今年度から学期に1回、「力いっぱい検定」、通称「力検」をスタートさせた。校訓「力いっぱい」をモチーフに、子どもたちが努力を重ね、「やればできる」が実感できることをねらいとしている。内容は国語と算数。授業で習った漢字と計算が中心だ。

7月13日、第1回力検を終えたところで、ある担任が子どもたちの様子をこう伝えてきた。



福沢諭吉が『学問のすゝめ』のなかで、こんな言葉を残している。「努力は、天命さえも変える。やってもみないで、事の成否を疑うな。自分の力を発揮できるところに、運命は開ける」

およそ150年前に記されたこの言葉は、時代を超えて今なお色あせることがない。

では、努力できる人と、そうでない人の違いは何か。きっとそれは、目指すべき目標や夢の有無、達成感を味わった経験の有無による

「時間をかけて練習した漢字ノートや、真黒になるまで計算したプリント。子どもたちのやろうという意識の高さに驚きました」

そして、国語も算数も100点を取った5人の児童は、こう話した。

④「漢字を何回も練習した後、お父さんやお母さんが問題を出してくれました」

③「繰り返し繰り返し、計算練習しました」

②「算数は得意なので、問題をやるというより、やり方を丁寧に見直しました」

話を進めていくと、5人にはこんな共通点があった。それは、帰るとすぐに宿題を済ませる習慣があること、さらに将来の夢をもっていることだった。だからだろうか。「力検の勉強は苦痛じゃなかった」と、口をそろえた。

努力のスイッチは、本人の意思でONになる。そして、本気になる、苦痛は伴わない。

作家、井上靖氏の名言がある。「努力する人は希望を語り、怠ける人は不満を語る」

実は、力検のねらいはここにある。1点でも2点でも「やればできる」を実感できれば、これが近い将来、希望を語る力になる。

私は、福沢諭吉の言葉をこう解釈している。『努力によって、君の未知なる能力は開花する』。何も子どもに限ったことではない。私たち大人ももう一花、二花咲かそうではないか。